

中濃農林事務所の普及活動状況

令和2年8月31日現在

今月の重点活動

■指導農業士活動支援 中濃ブロック研修会の開催

8月26日、中濃、郡上、可茂の各地区指導農業士会合同による現地研修会が郡上市高鷲地区において開催された。本会は優良経営事例の視察を行い、中濃圏域の指導農業士の交流と情報収集・交換を図るもので、毎年、開催地区を変えて行っている。

当日は、指導農業士12名の他、農林事務所からも5名が参加し、現地の2経営体を視察した。(株)ひるがのリーリオでは、ユリ栽培における株式会社化のねらいや雇用労力確保の工夫などについて、(株)エスタンシアでは、スマート農業の取り組み事例として、草刈りロボットの導入効果について、現場でのデモを通じて学ぶことが出来た。参加した各指導農業士からは、自分の経営に活かすことが出来る視察であったとの感想が出された。

農業普及課では、今後も各地区の指導農業士活動の支援を行っていく。



【草刈りロボットの現地デモ】

新たなブランドづくり

■花き 県育成キンセンカ「かれん」シリーズ（種子系）の試験栽培を開始

本県農業技術センターが育成したキンセンカ（カレンジュラ）「かれん」は、これまでのキンセンカのイメージを一新し、寒さや病気に強く、一重咲で花壇や寄せ植えに最適な品種と期待されている。

当初は、彩が優しい10品種でシリーズ化されたが、管内花苗生産者ハウスでは、増殖しやすく改良された種子系6品種のうち形質の安定した3品種の譲渡を受け、8月に採穂してポットで親株用として管理している。また、別途農業技術センターで採種された6品種の種子が8月2日に配布され、セルトレーに播種して秋出荷用として試験栽培が開始された。

農業普及課では、県農業経営課、研究機関と協力して「かれん」シリーズの現地増殖・販売を支援していく。



【「かれん」親株増殖】

(地域支援係)

多様な担い手づくり

■女性農業経営アドバイザー 中濃ブロック研修会開催

7月28日、岐阜県女性農業経営アドバイザー（GLAMA）中濃ブロックが、関市及び美濃市で視察研修及び全体会議を開催し、会員11名が参加した。

この研修会は、アドバイザーとしての資質向上や仲間づくりを目的とし、新規会員の経営訪問を兼ねたブルーベリー摘み取り体験や前年度中濃ブロックで作成した食育カルタのお披露目等を行った。さらに全体会議では、食育カルタを使用した食育活動への取り組みについて検討を行った。

農業普及課では、アドバイザーの組織活動への支援を今後も引き続き行っていく。



【経営訪問の様子】

(地域支援係)

売れるブランドづくり

■ 水稻採種ほ ほ場審査始まる

中濃農林事務所管内では、美濃市及び関市内で、水稻品種「ハツシモ岐阜SL」、「みのにしき」、「あさひの夢」、「モチミノリ」のほか、本年からは「あきさかり」も加えた5品種の種子を生産している。

水稻種子生産においては、出穂期(穂が出てくる頃)、糊熟期(穂の中に実が作られる頃)の2回、ほ場の管理状況を審査する「ほ場審査」と、収穫後に種子の発芽の良否を検査する「生産物審査」を受けることが、岐阜県種子条例で義務付けられている。

8月6日に農業普及課が審査員を務め、(農)美濃種子の組合員が作付けしている「あきさかり」の出穂期審査を関係機関と連携して実施し、全筆が合格した。今後、10月上旬までに隔離ほ場を含めて337筆の審査を行い、優良種子生産を支援していく予定である。



【ほ場審査の様子】

(地域支援係)

■ ゆず 6次産業化支援

農業普及課では、昨年度策定した関市上之保地区の特産であるゆずの産地振興ビジョンの「かみのほゆず産地方針」に基づき、ゆず生産の支援を行っている。

同地域では、かみのほゆず株式会社がゆずの生産、集荷、加工、販売まで一貫して行っており、昨年度は地区農家から約30tを集荷し、加工、販売した。数年前から新商品開発、既存加工品のリニューアルや自社生産化を進めるなどしてきたものの、加工品販売の伸び悩みが課題となっているため、8月1日に6次産業化プランナーの派遣指導を受け、加工品の原価計算方法を見直して商品ごとに正確な原価を算出することとなった。

今後、農業普及課では、6次産業化プランナーと連携を図りながら、かみのほゆず株式会社の経営改善の支援を行う。



【プランナー派遣の様子】

(地域支援係)